

中海 エコ活動 レポート

中海の環境保全活動と
ワイズユースを紹介します

第28号
令和3年3月



中海・宍道湖ラムサール条約登録15周年記念！ ～地域の宝を未来につなごう～



平成17年11月8日、中海と宍道湖は世界的に重要な湿地としてラムサール条約に登録され、令和2年は、ラムサール条約登録から15年目という節目の年を迎えました。両湖の保全と賢明な利用（ワイズユース）の今後さらなる普及啓発のために、令和2年10月31日（土）米子コンベンションセンターでラムサール条約登録15周年イベントが鳥取県・島根県の連携事業として行われました。

イベント当日は、両県知事による挨拶や未来宣言により始まり、記念講演やスピーチ、パネルディスカッションが行われ、これからも両湖を守り続け、未来へつないでいく決意を新たにしました。

※当日は、コロナ禍により入場制限しましたので、DVDやYouTubeでご視聴いただけます。
(DVDは、出版元で貸出可能です。動画URL：<https://youtu.be/ta2EV-1i4eg> または
https://www.pref.shimane.lg.jp/infra/kankyo/kankyo/shinjiko_nakaumi/ramsar/wise_use/shinjiko_nakaumi_douga.html)

■お問い合わせ 鳥取県生活環境部 ぐらしの安心局 水環境保全課
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220 電話 0857-26-7197
メール mizukankyuhozen@pref.tottori.lg.jp
島根県環境生活部 環境政策課
〒690-8501 松江市殿町1番地 電話 0852-22-5279

ラムサール条約登録15周年記念イベント

記念講演「中海と私たちは水鳥だけではなくゴミでもつながっている!？」

米子水鳥公園の神谷要館長は、かつて市民の反対運動によりゴミ処分場として埋立を免れた、ラムサール条約登録湿地である愛知県の藤前干潟を題材に、ゴミ問題解決の難しさについてご講演されました。

これからの社会を考えるうえで重要なゴミ問題については、中海も同様で分別収集、処理技術等、行政と地域住民との連携が必要であり、異分野の人たちが交流することで解決できるのではないかとこのことをユーモアを交えてお話されました。



スピーチ ～中海の取材を通して、今思うこと～

中海テレビ放送の上田和泉さんは、平成13年から取材を続けている中海再生への取組をご講演されました。取材番組「中海再生への歩み」では、当時泳げるまできれいになった諏訪湖を手本に「10年で泳げる中海」を共通目標として、アダプトプログラムも取り入れ水質浄化に取り組む地元の方々の活動等を放送してきました。取組から10年目の平成23年には、中海は地域メディアと市民活動の連携により、泳げる中海を実現しました。20年以上にわたって、地域の方々の中海への思いを取材されていますが、訪れるたびに新たな発見等、話題が尽きないというお話が印象に残りました。

パネルディスカッション <中海・宍道湖の未来に向かって>

さきも

神谷氏、上田氏に加え未来守りネットワーク奥森理事長、中海再生プロジェクト新田副理事長、宍道湖グリーンパーク岩西観察指導員、水の都プロジェクト協議会松本専務理事の6名で「中海・宍道湖の姿」についてパネルディスカッションをされました。日頃、熱心に取り組まれているそれぞれの活動について熱くお話され、ワイズユースの取り組みの輪のさらなる拡大に向けて、とても有意義なディスカッションになりました。

中海自然再生協議会（第8期）公募委員の募集

第8期の中海自然再生協議会公募委員を下記のとおり募集します。

内容

自然再生推進法に基づく中海自然再生事業の実施状況の確認と討議、適切な助言や提言の実施など

任期

令和3年4月1日から令和5年3月31日まで（2年間）

応募資格

年2、3回の協議会の会議に出席し、討議に参加できる人又は団体

報酬・旅費

支給なし

応募期間、方法

令和3年3月1日から4月30日までの期間に、中海に関し関心を持っている事項、氏名、年齢、性別、所属、住所、連絡先を記載の上、メール、FAXまたは郵送でご応募ください。

申込み・問合せ先

中海自然再生協議会事務局（認定NPO法人自然再生センター）
〒690-0064 島根県松江市天神町127-3階
電話 0852-21-4882、FAX 0852-61-0900
電子メール info@sizen-saisei.org



オゴノリ刈り



シンポジウムでの小学生による発表

米子水鳥公園 開園25周年記念式典を行いました！

米子水鳥公園は、令和2年10月22日におかげさまで開園25周年を迎え、記念の式典と探鳥会を行いました。この式典では、米子水鳥公園子どもラムサールクラブの小川大輝君や、15年前のラムサール条約登録の時に高校生としてウガンダでの締約国会議に参加した門脇翔一さんより、水鳥公園への思いの発表がありました。

また、「環境問題を考える企業懇話会」より消毒液ディスペンサーと消毒液の寄贈と、ハンドベルチーム「ベルシュシュ」より演奏をいただきました。

米子水鳥公園が市民の思いが実り開園して25年、今までの活動を振り返るよい機会となりました。



門脇翔一さんによる発表



ハンドベルチーム「ベルシュシュ」による演奏

■お問い合わせ 米子水鳥公園

〒683-0855 米子市彦名町新田665 電話 0859-24-6139

秋の加茂川まつり～「加茂川」名称復活記念～

令和2年8月5日、米子市内を流れる「旧加茂川」の名称が54年ぶりに「加茂川」へと戻りました。この名称復活を記念して、11月3日、米子市の加茂川広場にて秋の加茂川まつりが行われ、当日は1000人以上の参加者で賑わいました。

昭和59年から毎年8月に行われてきた加茂川まつり、昨年は新型コロナウイルスの影響で例年通りの夏の開催はできませんでしたが、名称復活の記念イベントはぜひとも開催したいとの声もあり、秋のまつりとして開催されました。



当日、賑わいを見せる加茂川広場



名称復活した加茂川でのカヤック体験

加茂川は江戸時代から米子の中心を流れる水運の大動脈としての役割を担ってきましたが、昭和41年の新河川法に基づいて、新たに造られた川を「加茂川」、従来の川を「旧加茂川」と指定されました。

歴史・文化・観光によるまちづくり推進や、米子の発展に寄与してきた大事な川の名称を元に戻したいという地域住民の思いもあり、平成31年1月、近隣自治会や商店街など10団体から、従来の「加茂川」への名称復活を望む要望書が米子市へ提出され、今回の名称復活へと繋がりました。

■お問い合わせ 一般社団法人 米子観光まちづくり公社

〒683-0835 米子市灘町1-19 電話 0859-21-3007

米子市湊山公園の池で浄化活動を行う 市民団体「湖底こううん隊」が 「水・土壌環境保全活動功労者表彰」を受賞

令和2年12月23日、環境省「水・土壌環境保全活動功労者表彰」を、米子工業高等専門学校物質工学科および物質工学専攻の学生が中心となって活動する市民団体「湖底こううん隊」が受賞しました。当表彰は、環境省水・大気環境局長が水・土壌環境の保全に関し顕著な功績のあった団体や個人を顕彰するため、毎年行っているものです。



湖底こううん隊は米子市湊山公園内の池の浄化を目的に結成され、平成26年から浄化活動を実施してきました。具体的には、池の底に堆積した有機質泥（いわゆるヘドロ）をかき混ぜる「耕耘」を毎月「人力で」行うことによって酸素をヘドロに供給して解消を目指すというものです。耕耘とともに、泥の分析や生物観察を行ってきましたが、その結果、活動を始めた頃よりも泥に含まれる有機物量が減少し、ゴカイやシジミなどの底生生物が増加しました。

本活動は延べ1000人以上の学生、地域住民の協力のもと実施してきました。参加して下さったすべての方に感謝します。



池の底のヘドロをかき混ぜる「耕耘」の様子



子どもたちと一緒に池の生物観察会を実施

■お問い合わせ 米子工業高等専門学校 物質工学科
〒683-8502 米子市彦名町4448 電話 0859-24-5162

編集・発行者

鳥取県西部総合事務所
生活環境局環境・循環推進課
〒683-0054 米子市靴町一丁目160
電話 0859-31-9322
E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.lg.jp
Homepage: <https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

鳥根県環境生活部環境政策課
宍道湖・中海対策推進室
〒690-8501 松江市殿町1番地
電話 0852-22-5279
E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp
Homepage: https://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。

詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページを御確認ください。